

西日本少年サッカー招待大会を見て

西日本OB連盟少年委員(枚方FCコーチ) 近江 達

西日本少年サッカー招待大会は、ポートアイランド球技場の美しい芝生で熱戦をくり広げた。参加チームは、数回の全国大会優勝と欧米遠征で名高い少年サッカー界のエリート清水FC、昨年末強剛ぞろいの清水大会優勝の静岡FC、市内優秀選手を集めた神戸選抜、西日本OB連盟傘下小学生チームからの西日本選抜と、数こそ少ないが粒ぞろい。なかでも静岡、清水の決勝と神戸、西日本の三位争いは、片や疾風迅雷、片や小学生なりに当意即妙、緩急自在。サッカーの多様性と面白さが十二分に味わえた。

優勝した静岡は高校生なみの大柄選手数名が主役で典型的藤枝静岡タイプのダイレクトパスとウイング攻撃にドリブルをませ、彼らの肩以下の相手選手は大きな振幅についていけず、全力疾走に入ると簡単に振り回されてしまう。それでも、さすがに精緻なチームワークで鳴る清水の精鋭たちは俊敏に間を縫って先取点をあげたものの、時間とともに体力差が拡大してゆき、後半ついに力をついた。

小学生だと大きい選手は大体頭も早熟で進んでいるので、幼稚な傾向のある小さい選手に対しては、体格体力差だけでなく知力差も加わるため、身長制の必要を考えさせられるくらい冷酷なまでに猛威をふるうものである。だが、その大差を見て、彼らが将来すばらしい選手になれると早がてんしてはいけない。ある程度才能のある少年なら、大きくなれば誰でもそのくらいのプレーはできるようになるものだからである。神戸選抜は対清水戦で全力を使い果たしたため三位決定戦に破れたが、西日本との違いはプレーの正確度、自由と個性の確立度とあり、巧さよりも周りの見え方、状況の感じとり方、頭の働かせ方、その内容、セ

ンスなどに差があった。チーム作りや強化は一般にパターン徹底や管理強化によって行われるが、小学生の場合はそれよりも、そうした知的能力の改善向上によって、誰でも臨機応変に巧く連携していける能力を長年かけてコツコツと身につけていく教育が必要であろう。

今回の西日本選抜はいろいろな意味でユニークだった。富山、松山、熊本など広地域から「ボールのもてる選手」にピントを合わせて選んだため、ゲームメーカーの小型選手が多くなり、構成にバランスを、戦力に強さを欠く結果になった。これまでのような点取り屋も、どんな攻撃でもはね返せる頑強なバックもないところへもってきて、集合の翌々日が大会で、ゴール前守備連係の不備を抜け目ない静岡勢につかれ失点を重ねたが、三位決定戦でやっと真価を発揮できた。

スペースからスペースへ直線的にスピードで勝負する静岡清水とはかなりちがっていて、タッチ数の多いボール扱いと柔軟な身のこなしやフェイントでスレスレにかわしてゆくドリブル、パスのタイミングやコースなども緩急を入れて変化に富み、いささか誇張すると、自在なコースで局地的に戦うかと思えば、サイドチェンジ、ロングパスからの速攻、センタリング、中央突破と多彩。混成にもか、わらず選手一人ひとりが頭を働かせ臨機応変にたがいに呼吸を合わせて次々に連携を作りだしていったのはさすがだった。

高校選抜クラスでさえパス一つとりあげてもワン・パターン、オンリー・ワン・タイミングの選手が少なくない現状である。この柔軟弾力的な創造性やセンスをくぐれぬも大切に伸ばしていって欲しいと思う。

清水FC 2-0 全神戸
西日本少年 6-0 全神戸
清水FC 1-3 静岡FC

(順位) 1、静岡、2、清水、3、西日本少年、4、全神戸、(注) 清水、静岡は市内の選抜チームをFCと称している。

少年サッカー指導者講習会始まる

29日、7月4日、(後期9月下旬から6回)
(時間と場所) 18:30~ 磯上球技場外、
(受講料) 1,000円 (テキスト代含む)
(持参するもの) 筆記用具、実技の服装、ボール各自1個
(講師) 日本サッカー協会公認コーチ
一北四郎、岡本隆英、黒田和生、森田哲哉
関根 繁、加藤 寛、岡 俊彦
(内容) 講義一サッカー概論、少年育成、発育発達、指導法、規則、心理学、戦術と作戦、救急法、実技一基本技術と戦術、指導実習外

希望の方はハガキに①氏名②住所③電話番号④勤務先⑤年齢⑥指導チーム⑦要望事項を書いて協会事務局宛申し込むこと。

(日程) 5月30日、6月6日、10日、20日

東灘区住吉宮町4丁目6-13 ☎078(821)8449
国鉄住吉駅南側西へ20m

灘スポーツ
灘区倉石通5丁目1-8 ☎078(861)4671
市バス水道筋6丁目上がる100m東側

塩谷スポーツ
兵庫区大開通7丁目5 ☎078(576)0870
バンドウ化学南

MEN'S SHOP MAC
三宮センター街店 ☎078(391)0895
プレザージュ、トーアロード店 ☎078(391)0896
神戸・新開地店 ☎078(575)7688

ワールドスポーツ
東灘区深江北町4丁目7-3 ☎078(453)2186
阪神深江駅北側信号西

オウビ
葦合区琴緒町4丁目7 ☎078(242)3667
国鉄三宮駅北側神戸理髪専門学校斜め前(田上ビル1階)

スメラ
湊川店 湊川プラザ2階 ☎078(511)2234
鈴蘭台店 ダイエー西側 ☎078(592)0470

加茂ストアロード店
生田区三宮町3-2 ☎078(392)0234
国鉄元町駅南側東へ100m

スポーツワールド33
生田区三宮町2丁目1 ☎078(332)7332

マヤスポーツハウス
灘区森後町1丁目4-6 ☎078(841)8811
国鉄六甲道駅北 兵庫信用金庫六甲支店山側

市中学生選手権大会

六甲中が初優勝

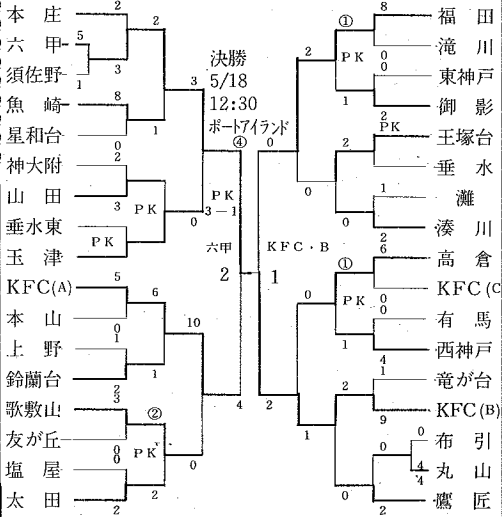
神戸FC・A、Bを連破

第22回神戸市民大会兼兵庫県中学生選手権神戸市予選は5月3日から18日にかけて竜ヶ台中学グラウンド外4会場で史上初の34チームが参加して行われた。今大会は年々参加校が増え、関係者はレベル向上につながるものと期待している。今年初参加は星和台と竜ヶ台の2校。新チーム結成以来各校とも練習を重ね、55年度の開幕にふさわしい熱戦が随所で展開された。

なかでも六甲対神戸FC・Aの準決勝は六甲が前半、神戸FC・Aのバック陣のミスをついて2点を先取したが、後半さすがに神戸FCが3点を入れて逆点、試合が決まったかに見えたが、六甲はエース山本を陣頭によく喰いさがって同点。延長前半、CKから神戸FC溝畑が決めて再びリードしたが、終了間際に六甲は再度同点に追いつき、PK戦では意気昂る六甲に凱歌が上がった。決勝では登り調子の六甲が同じ神戸FC・Bを2-1で下し初優勝した。

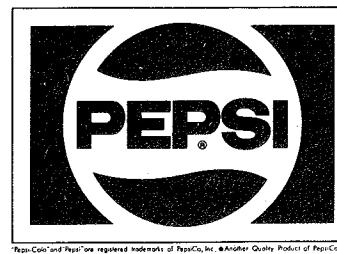
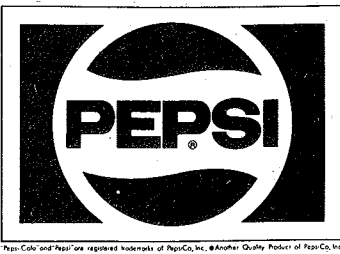
なお、この大会は一人でも多くの選手に試合を経験してもらうため交替選手を7人に広げるとともに各試合の観審は中学生の公認審判員がつとめテキパキとした態度は好評だった。また神戸FCの参加でわかるように、中学校の単独チーム以外でも協会に登録すればクラブチームでも参加できるよう門戸を開放している。(山名)

第22回神戸市民サッカー大会 兼兵庫県中学生選手権市予選



個人購読のご案内

弊紙を個人で購読ご希望の方は、1年分として50円切手12枚を同封のうえ、次のところへお申し込みください。
〒657 神戸市葦合区八幡通2-5磯上公園
神戸市サッカー協会 078-232-0753
なお、数人分まとめて申し込まれる場合は割引がありますのでご連絡ください。



シニア・ジュニアとも神戸が優勝

＊第3回赤川杯高校選抜支部対抗戦＊

国民体育大会少年の部兵庫県代表選手を選手する赤川杯高校選抜支部対抗戦は第3回目を迎えた。今年は4月2日3日、磯上と六甲高校で3年生中心のシニアと2年生以下のジュニアに分けて大会を実施し、神戸市選抜が両部門とも優勝、個人賞も最多得点賞と敢闘賞を除く五部門を獲得した。

これまで赤川杯は高体連主催で行われてきたが、日本協会のトレーニングセンター構想に従って今後県下トレーニングセンターの対抗戦として協会が主催して行なわれることになった。そのさきがけとして、ジュニア部門には昨年4月全国中学生選抜大会に優勝した県中学選抜チーム(新高1でクラブチームの選手も含む)が参加、一回戦で阪神選抜に練習不足とベストメンバーが組めなかったため敗れたが、テクニック、動きの速さに見るべきものがあつた。

シニアの部決勝は予選リーグで阪神を下し1位で決勝トーナメントに進出した神戸と準決勝で阪神を下した西播の対戦となったが、神戸が個人技、チームプレーとも西播を圧倒し三連覇を達成した。

昨年から新設されたジュニアの部決勝は阪神と神戸が対戦し、神戸選抜の守備、中盤の充実が阪神につけるスキを与えず、この部門でも神戸選抜が連続優勝を果たした。

各支部とも忙しスケジュールの中で選抜チームを編成し、練習をつんで今大会に臨んでくれたようだが、まだ支部によってはこの大会の意義が正しく理解されていない地区もあり、その取り組み方の差が成績にあらわれているようだ。その中で西播は今回よくまとまって、阪神を破る健闘を見せし、有地(東洋大附)が敢闘賞、但馬選抜の増田が地理的ハンデを克服して最多得点賞となったのは特筆される。(一北)

第一次国体候補選手

ジュニア (2年生) 田川 幸夫(東灘)
GK 吉田 竜夫(御工) 今藤 竜介(伊北)
FB 山本 秀央(伊北) 辻本 晃司(西宮東)
丸井 正寿(御影) 落合 一雄(東灘)
妹背 孝哉(六甲) 中野 操(六甲)



有地 森野 中野

赤川杯優秀選手賞の選手

八木 三好 兼本



田中 誠人(御工)
古谷 大治(小野)
FW 海原 総爾(川西緑台)
内山 修一(県芦屋)
祖母井章夫(御工)
望月 康寛(星陵)
斉藤 信之(飾磨)

シニア

GK 兼本 正光(御工)
FB 岩室 寿和(鳴尾)
藤本 和彦(北須磨)
野淵 潤徳(東灘)
原 勝彦(三原)
森野 和行(御工)

HB 新名 宏章(県西崎)
池本 徳良(東灘)
八木 清吾(御工)
小林 匡樹(〃)
竹本 泰司(明南)

FW 有地 広樹(東洋大付)
田中 浩一(県芦屋)
垣内 修(県西宮)
石川 和也(尼崎小田)
米田 尊行(伊丹北)
三好 浩一(御工)
井若 亟二(〃)
片山 和弘(社)
小丸 一志(三原)
増田 良行(浜坂)

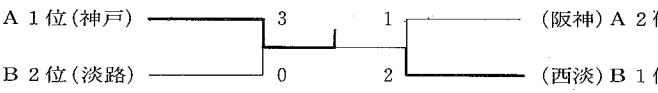
●シニアの部 Aグループ予選リーグ

	阪神	神戸	丹有	勝点	得点	失点	差	順位
阪神		×0-1	○4-0	2	4	1	+3	2
神戸	○1-0		○5-0	4	6	0	+6	1
丹有	×0-4	×0-5		0	0	-9	-9	0

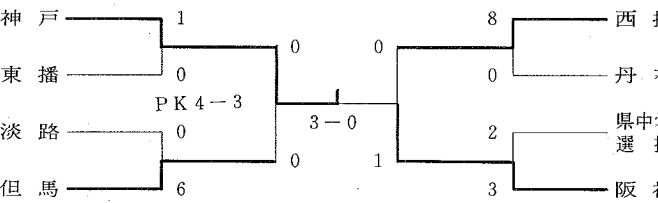
Bグループ予選リーグ

	東播	西播	淡路	勝点	得点	失点	差	順位
東播		×1-3	○3-2	2	4	5	-1	3
西播	○3-1		×1-2	2	4	3	+1	1
淡路	×2-3	○2-1		2	4	4	±0	2

決勝トーナメント



●ジュニアの部



市協会常務理事会開かれる

昭和54年度をしめくくる市協会の常務理事会が4月19日磯上・サッカー会館で開催され54年度の事業報告、会計報告と新年度の事業計画案が話し合われた。ことに事業計画は今後の神戸サッカー界の飛躍の年になるよう種々検討された。案件はいずれも総会に報告されます。

★心技とも日本一になるために
神戸市協会は、社会人、大学、高校、中学、少年、技術、審判、総務という八つの委員会から組織され、これら八つの委員会が連携をしながら年間約1000試合を消化して、神戸のサッカーの普及発展に努力しています。

これにはサッカーを愛する皆様方の多大の協力が必要です。協会に対するご意見とともに皆さんの参加、協力なくしてサッカー王国の再建は考えられません。

★サッカー会館をもっと利用しよう。

昨年夏、磯上球技場にサッカー関係者希望のサッカー会館が完成し、県、市協会の事務所を設け、事務職員二人を置いて事務事業運営の円滑化を図っていますが、会館自身の運営には非常に苦慮しております。さてそこで皆様方には会館会議室を一層ご利用いただいてこれにご協力願いたいと思います。各チームの世話役からは市街地に位置しているのて便利がよいと大変好評です。使用料は次の通りです。

時間	会議室	小	大
9時 ~ 12時		2,000円	3,000円
13時 ~ 17時		3,000円	5,000円
18時 ~ 21時		5,000円	6,000円
9時 ~ 21時		10,000円	14,000円

なお会館の運営時間は、月曜日から土曜日まで12時から17時30分まで。日曜、祭日は休み。

住所・葦合区八幡通2-1-10
兵庫県サッカー協会
神戸市サッカー協会
電話 232-0753・232-4647

★月刊「神戸のサッカー」100号記念紙
このニュース「月刊神戸のサッカー」は、来年6月で100号に達します。
100号を記念するための行事を計画しなければなりませんので、100号記念行事委員会を設立することになりました。愛読者はもちろんのことサッカー愛好家のみなさん楽しい意見がありましたら協会までご連絡下さい。

★55年度市サッカー協会総会
市協会の総会は過去一年間の事業報告、会計報告、今後一年間の事業計画を討議し、サッカーの普及発展に寄与するため毎年一回開催されます。

今年の総会は5月17日(土)18時から磯上サッカー会館で開催されます。

本紙は右記の店にもあります

神戸っ子2000人が参加 市少年リーグ始まる

今年も5月3日から約2000人の神戸っ子を対象に神戸市少年少女リーグが始まった。今年が目玉としては、男子もさることながら女子の底辺拡大に力点をおき、4年生以下の女子チームで編成したV部を新たに設けた。少年リーグは、サッカーを通じて、少年少女の交流を図り、体力作り、友だち作りをねらいとしている。また、技術の向上、普及を図りサッカー王国兵庫の再建へと夢をいだいている。会場は主に中央球技場内西北部の御崎少年サッカー場で行われる。こししばらく神戸・兵庫からは全国に通じる名選手が誕生していないので市・県のサッカー関係者はこれらのチビッ子選手から一人でも多くの名選手が生まれることを期待している。

少年少女は、毎日曜日、サッカーシューズをぶらさげ、タオルを片手に少年サッカー場へ元気よく出かけてくる。学校の成績が悪いといって叱られていた顔とはうってかわって元気はつらつ。応援にきている父母も明るく、健康に満ちあふれた顔をしている。子供たちは、父兄の応援によって熱のこもったプレーをする。お母さん、お父さんも時間があればサッカー場でプレーしているわが子の姿を見て下さい。

今年度の状況をみると、I部では23チームが参加。なんといっても神戸FC・Aが優勝候補の筆頭。次に伝統の東灘A。近年めきめき力をつけてきている箕谷Aなどが中心となり上位グループを形成するであろう。

また、蓮池A、ひよどり台A、成徳Aが紙一重の差でせまっておもしろい試合が期待できそうだ。

II部は28チームが参加。今年も神戸少年スクールを中心にゲームは展開されそうであるが、今年から参加している有野A、みさきFC・A、新多聞Aの力もあなどりがたいものがある。

III部は26チームが参加している。このリーグは4年生から2年生までで結成されており、まさにチビッ子が力の限りを尽くして楽しいゲームを展開する。身体が柔わらかくボールコントロールもうまく、オーバーヘッドキックなど常識では考えられないみごとな技術もひろうしてくれる。

IV部は5・6年生の女子20チームが参加。昨年図抜けたチーム力をほこった有馬が今年は参加していないのがとても残念である。しかし箕谷、八多といった男子チーム以上のキック力のあるチームもあり、力強いプレーが随所に見られるであろう。

今年新設のV部は4年生以下の女子で編成されたチームのリーグで、新加入の木津の活躍を期待している。

(校井)

(注) 55年度はリーグの年齢制 (I部～V部) が次の通り変更された。

昭和55年度少年リーグ組分け表

I 部

1 組	2 組	3 組
K F C A	東 灘 A	成 徳 A
ち と せ A	K F C C	高 倉 台 A
蓮 池 A	ひよどり台 A	板 宿
垂水SS東舞子	成 徳 B	桜 の 宮 A
八 多 A	鶴 越 B	多 井 畑 A
箕 谷 B		鶴 越 A
渦 ケ 森 A	福 住	丸 山 A
東 灘 B	箕 谷 A	垂水SS 塩屋

II 部

1 組	2 組	3 組	4 組
ひよどり台B	ひよどり台C	ひよどり台D	神戸SS
みさきFC A	有 野 A	ちとせ C	多井畑 B
高 倉 台 C	蓮 池 B	八 多 B	高倉台 B
北五葉 A	ちとせ B	桜の宮 B	和田岬 A
神陵台 A	KFC B	北須磨 A	新多聞 A
YMCA A	鶴 越 C	鶴 越 D	北五葉 B
和田岬 B	丸 山 B	渦ケ森 B	神陵台 B

＜54年度＞
I 部 (小6以下男子) → I 部 (小6以下男子)
A リーグ → I 部 (小6以下男子)
B リーグ → II 部 (小6以下男子)
II 部 (小4以下男子) → III 部 (小4以下男子)
III 部 (小6以下女子) → IV 部 (小6以下女子)
V 部 (小4以下女子)

＜55年度＞
I 部 (小6以下男子) → I 部 (小6以下男子)
A リーグ → I 部 (小6以下男子)
B リーグ → II 部 (小6以下男子)
II 部 (小4以下男子) → III 部 (小4以下男子)
III 部 (小6以下女子) → IV 部 (小6以下女子)
V 部 (小4以下女子)

なお、55年度6年生以下のI部、II部の区別は、昨年同様に各チームの希望でどちらへでも入れるが、原則としてI部は市内少年サッカーでは最高水準のリーグ、II部は次の水準リーグとしている。また、これまで男子のように年齢別にグループを分けていなかった女子も6年生以下のIV部と4年生以下のV部とに区別することになった。

III 部

1 組	2 組	3 組	4 組
みさき B	YMCA・B	ちとせ D	KFC・E
KFC・F	蓮 池 C	ひよどり台E	東 灘 C
桜の宮 C	成 徳 C	多井畑 C	有 野 B
神陵台 C	みの谷 C	有 野 C	新多聞 B
多井畑 E	北須磨 B	鶴 越 E	多井畑 D
鶴 越 F	ひよどり台F	KFC・D	鶴 越 G
高倉台 D			ちとせ E

IV 部

1 組	2 組	3 組	4 組
高倉台 A	丸 山 B	八 多 B	渦ケ森
多井畑 A	八 多 A	蓮 池	有 野 A
神陵台	ひよどり台B	桜の宮 A	丸 山 A
福 住	木 津 A	ひよどり台A	北五葉
みの谷	高倉台 B	多井畑 A	太山寺 A

V 部

ひよどり台C・D 多井畑C 高倉台C 太山寺B
有野B 木津B

「さわやかな審判をするために」 ヤンマー・ヤマハ戦より

県審判委員長 高 橋 敏 雄

ことですが、主審の位置が悪いため見落したり冷静さを失った状態に陥ったときなどあきらかに誤った判定をしたのにそれを曲げず、権限を前面に出すようなことがあれば選手にはすぐ見破れるもので、最悪の事態を招くだけです。こうなれば判定にはことごとく不満の声が出ますし、言わなければ損だというムードになり収拾がつかなくなることもあります。一試合で1～2のミスがあるものですがそのミスをミスとしてお互いが認めあったり、審判が機転をきかせたために大事に至らなかったことが多々あるわけです。そこは人間性(人柄)でカバーできるものです。

前半ヤマハが先取点をあげたことがこのゲームを盛り上げた一因であり、老舗のヤンマーが後半どう対処するかがハーフタイムにかかっていました。審判の私たちもハーフタイムには、前半の反省と後半にそなえるべき要点をチェックするわけですが、リフレッシュのため顔を洗ったり汗をふいたり、うがいをしたりして後半も平常心でいこうと時計をみながら新しい気持ちで控室をでるわけです。

センターサークルに近づくにつれ自分自身に気合を入れ、両チームの人数のチェックなども済ましてキックオフの笛を吹くわけです。陣地が入れ変わり、と前半のイメージが残っていることもあり、スローイングやフリーキックの方向が逆になる場合があるので、そのようなミスが起こらないよう気をつけています。このようなミスはすぐ気がつくのでたいした

ことにはならないのですが、判定基準が前半と変わらないことが最も大切なことです。試合は90分で行われますが一定していることが選手にも不安感を与えないということで試合がおもしろくなり、選手たちの日頃の技術を十分発揮させることになります。

2対1となつてからは、試合内容は落ちつき連発のヤマハ応援団の声援が地元マンマーを圧しはしたが、結果は古豪の勝ちでタイムアップとなったわけです。私の感じとしてフレッシュ・ヤマハのマナーのよさ、ベテラン・ヤンマーの紳士的な態度が大変さわやかに映りました。

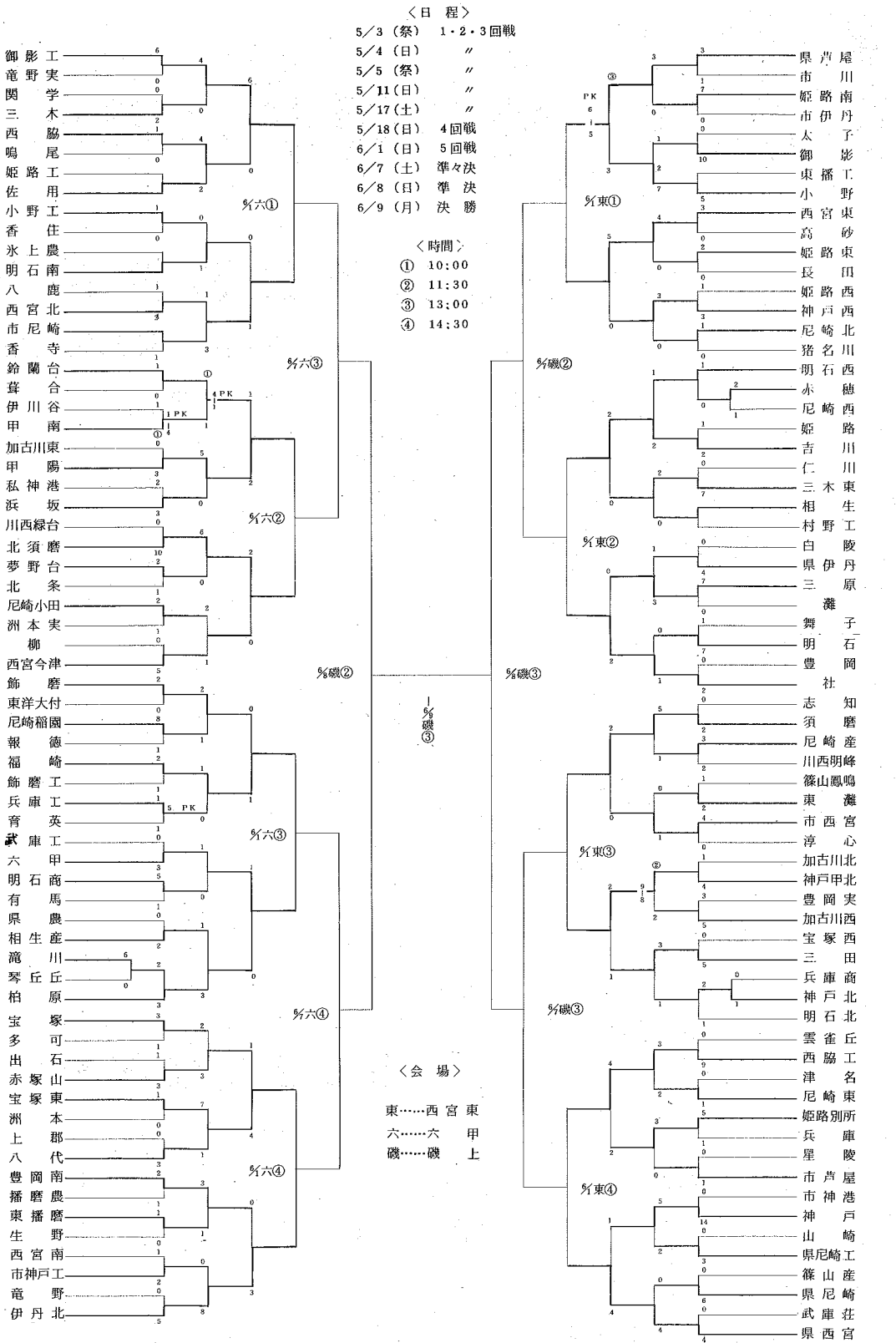
いつもであれば試合を終えて、センターライン上で礼をして引き上げていくときに、何かすっきりしない反省点を胸の奥深く感じているのですが、この日はかなりは非常にすがすがしく、満足感にひたっていました。これは審判の優劣よりも、プレーする選手、とりわけ新星のヤマハチームが新しい挑戦者として自分たちの力を十二分に発揮した結果、胸を張って地元へ帰れるという充実感がもたらしたものとされます。

90分の試合を選手もファンも今日の審判は公平であったといわれるためには、選手と一体になって走り、線審、予備審判、役員、球技場の職員、報道関係者らすべてサッカーを愛する情熱と友情がなければ生まれてこないわけです。

後日インスペクターからこの試合の報告がくることになっていますが、私はその点数がどうであれ久々に気持の良い審判ができたことをこの紙面をかりてサッカーファンのみなさんにお礼させてもらいます。

県高校総体始まる

元気な御影工、伊丹北、県西宮



日英親善サッカー大会

ミドルセックスワンダラーズ対読売クラブ

と き 6月8日午後4時キックオフ ところ 神戸市立中央球技場

入 場 料	前 売	当 日
メインスタンド	S席 1,500円	2,000円
	A席 1,000円	1,500円
バックスタンド	大人 800円	1,000円
	中高 500円	
	小 300円	

前売券 本誌配布スポーツ店
発売所 新聞会館プレーガイド
サンチカインフォメーション
兵庫サッカー協会事務所
〒651 神戸市葺合区八幡通
2-5 磯上公園
☎ 078-232-0753・4647

5月3日から展開されている昭和55年度、第24回兵庫県高校総合体育大会サッカー競技の抽選会が4月14日神戸高校同窓会館で行われた。今年は131校が参加、初参加は尼崎稲園と猪名川の2校で、試合数は130試合。別記の日程で行われる。

高校生活の祭典、総体県予選の覇者はどこの高校か、今大会を展望してみた。なんといっても優勝候補の筆頭は御影工。対抗は伊丹北この2校は順当に勝ち進めば準決勝で対戦することになる。去年も準決勝で顔を合わせ伊丹北が4-0と快勝しているものの雪辱をねらう御影工の闘志にはものすごい気迫が感じられる。この2校に続くのが県西宮、西宮東である。県西宮は近畿大会で北陽に善戦するなど底力をつけている。西宮東は昨年の優勝校でありながら新人戦では予選で敗れてはいるものの今大会を機に力いっぱいがんばっている。

その他有望校としては、三原、志知、社、飾磨の地方勢と西宮今津、尼崎小田の阪神勢北須磨、須磨、東灘、神戸、六甲、御影といった神戸勢も有望で、今大会は相当白熱したゲーム展開になりそうだ。

決勝戦は6月9日 13時～ 磯上G
準決勝は6月8日 11時30分～磯上G